

やまなし

第 78 号  
2011 年  
8 月

# 衛環研だより

発行：山梨県衛生環境研究所 甲府市富士見一丁目 7-31 TEL 055-253-6721  
URL：<http://www.pref.yamanashi.jp/fukushi/eikanken/>

## 平成 24 年度からスタートする調査研究課題の紹介

平成 23 年度第 1 回課題評価委員会が 7 月 21 日に開催されました。  
事前評価の対象になった課題は次のとおりです。

No.	調査研究課題
1	山梨県内地下水の水質性状と時系列変化
2	県内のスギ、ヒノキ花粉の飛散状況に関する調査
3	本県環境中の Naegleria 属アメーバの研究

## 調査研究計画評価書

評価実施年月日	平成 23 年 7 月 21 日				
調査研究課題 (部・科名)	山梨県内地下水の水質性状と時系列変化 (生活科学部)				
調査研究期間	平成 24～25 年度 ( 2 力年 )				
調査研究概要	<p>この調査では、甲府盆地内を中心とする多地点の地下水水質状況や、水質の時系列変化状況を解析することを目的とした。</p> <p>方法は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地下水水質の変化状況に関する調査</li> <li>2. 地下水水質の主要成分に関する調査を行なう。</li> </ol> <p>「1.」の変化状況に関する調査では、甲府盆地とその周辺に位置する飲用地下水の水道水質試験結果や公共用水域水質測定結果(地下水)を用い、時系列変化状況を解析し、変化傾向要因を検討する。「2.」の主要成分に関する調査では、地下水水質を各イオンごと(硬度はCa, Mgとし、陰イオンではSO4イオンを測定する)に濃度状況を把握する。得られたデータについて、地形や地質などの自然的影響と、農業や工業などの人為的影響を基に水質の特徴を検討する。</p>				
評 価 内 容	評 価 点 ※				総 合 評 価 点 ※
① 調査研究目的の妥当性	5	④	3	2	1
② 厚生・環境科学における学術的意義	5	④	3	2	1
③ 目標達成のための手法、計画、体制	5	④	3	2	1
④ 衛生行政・環境行政への寄与	5	④	3	2	1
⑤ 県民、社会的ニーズへの対応	5	4	③	2	1
コメント	総 合 評 価	地下水水質の動向を監視する上で、意義のある研究である。 データの信頼性を高め、水質変化の要因に切り込むための解析方法を工夫することを期待する。			
	対 応 の	データの妥当性、信頼性について十分な評価を行う。 また、データ整理においては、水量など多面的な観点から行う。			

※ 5:優れている, 4:良好, 3:概ね良好, 2:部分的な見直しを要す, 1:全面的な見直しを要す

## 調査研究計画評価書

評価実施年月日	平成 23 年 7 月 21 日				
調査研究課題 (部・科名)	甲府地区のスギ・ヒノキ花粉の飛散状況に関する調査 (微生物部衛生動物科)				
調査研究期間	平成 24～25 年度 ( 2 力年 )				
調査研究概要	<p>春季に飛散し、花粉症の主な原因となっているスギ花粉、ヒノキ花粉の飛散数について調査を実施し、過去データから翌年の春の飛散量および飛散開始日について予測をおこない、花粉症罹患者や症状が発症していないが花粉症になる可能性がある花粉症予備軍を含めた県民に対して、予防対策として当所屋上で観測したデータを公開し、予防対策や医療機関受診の目安となる飛散開始日を知ってもらい、症状の軽減等を実施することで、快適な生活を送ってもらうことを目的としている。</p>				
評 価 内 容	評 価 点 ※				総 合 評 価 点 ※
① 調査研究目的の妥当性	5	④	3	2	1
② 厚生・環境科学における学術的意義	5	④	3	2	1
③ 目標達成のための手法、計画、体制	⑤	4	3	2	1
④ 衛生行政・環境行政への寄与	5	④	3	2	1
⑤ 県民、社会的ニーズへの対応	5	④	3	2	1
総合評価	<p>県民の生活に直結する意義のある研究である。花粉情報を蓄積、継続することも重要である。モデルの再検討、環境の変化との比較など、多面的分析を期待する。</p>				
所の対応	<p>引き続き、花粉情報の蓄積を継続して行う。 また、モデルの再検討にあたり、環境の変化や、新たな独立変数等を考え、多面的分析を行う。</p>				

※ 5:優れている, 4:良好, 3:概ね良好, 2:部分的な見直しを要す, 1:全面的な見直しを要す

## 調査研究計画評価書

評価実施年月日	平成 23 年 7 月 21 日				
調査研究課題 (部・科名)	本県環境中の <i>Naegleria</i> 属アメーバの研究 (環境科学部水質科)				
調査研究期間	平成 24~25 年度 ( 2 力年 )				
調査研究概要	我が国では過去分離例の極めて少ない病原性自由生活アメーバ <i>Naegleria fowleri</i> (以下 <i>Nf</i> ) の生息状況等の調査研究を行う。前回の課題研究で <i>Nf</i> を分離した水路の生息分布調査等を行い、当該水路における生息状況を明らかにする。また、類似の環境である別水路の調査を実施する。分離株が <i>Nf</i> と同定された場合は、塩基配列の系統解析により過去我が国及び海外で分離された株との近縁関係を明らかにする。なお、分離株の病原性調査や保存等については国立感染症研究所へ協力要請を検討している。				
評 価 内 容	評 価 点 ※				総 合 評 価 点 ※
① 調査研究目的の妥当性	5	④	3	2	1
② 厚生・環境科学における学術的意義	5	④	3	2	1
③ 目標達成のための手法、計画、体制	5	④	3	2	1
④ 衛生行政・環境行政への寄与	5	4	③	2	1
⑤ 県民、社会的ニーズへの対応	5	④	3	2	1
コメント	総合評価 基礎的な学術的情報をこのような研究機関で蓄積してゆく意義は大きい。危機管理の一環として、将来、万が一の時にも役立つ情報の積み重ねを継続してほしい。				
所の対応	危機管理対策に備え、基礎的な研究を実施し、情報の蓄積を継続して行う。				

※ 5:優れている,4:良好, 3:概ね良好, 2:部分的な見直しを要す, 1:全面的な見直しを要す